

臨地実習 (老年看護学 / 高度実践コース)

[実習] 1年 後期 必修 90時間 2単位

《担当者名》○山田 律子 [rich@hoku-iryo-u.ac.jp] 船橋久美子 [kumi-funahashi@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

パーソンセンタードケアの理論に基づき、認知症高齢者と家族へのcureとcareが統合された看護実践や、診断・治療方針の決定に関わる倫理的課題への調整、多職種との調整について、老人看護専門看護師(GCNS)のシャドーイングや活動への参画を通して学びながら、GCNSとしての役割・機能について実践的に学ぶ。

【学修目標】

- 1) 認知症疾患医療センターにおける認知症の診断に至るまでの経緯を踏まえた上で、診断時の支援とその後のフォロー体制、cureとcareが統合された看護実践および倫理調整、多職種との調整について、GCNSのシャドーイングや活動の参画を通して学ぶ。
- 2) 認知症高齢者とその家族の思いに寄り添い、認知症の診断・治療方針の決定に関わる倫理的課題や今後どのような支援が必要なのか総合的にアセスメントできる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1週	認知症の診断時支援とその後のフォロー体制、cureとcareが統合された看護実践および倫理調整、多職種との調整	実習場所：認知症疾患医療センター ・認知症疾患医療センターのシステムを把握し、GCNSのシャドーイングや活動の参画を通して、認知症の初期診断を受ける高齢者とその家族へのcureとcareが統合された看護実践、診断・治療方針決定時の倫理的課題への倫理調整、多職種との調整について学ぶ。	山田 船橋
2週	認知症高齢者とその家族における倫理的課題や今後の支援に関する総合的にアセスメント	実習場所：認知症疾患医療センター ・初期診断を受ける認知症高齢者と家族1組を紹介いただき、認知症の診断に至るまでの経緯と当事者の状態像についてアセスメントを行う。さらに、訪問看護に同行することで、認知症をもちながら地域で暮らす高齢者の思いや生活環境を知り、cureとcareが統合された看護実践と多職種との調整の実際を学ぶ。	山田 船橋

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

実習課題の達成状況(70%)、課題レポート(30%)を総合して評価する。

【教科書】

1. 山田律子・内ヶ島伸也(2025). 生活機能からみた老年看護過程 第5版. 医学書院.
2. 日本老年看護学会(2025). 認知症看護スタンダード (スタンダードケア・シリーズ), 照林社.
3. 内海久美子(2016). 地域包括ケアってなあに? 地域で見守る認知症: 砂川モデルを全国へ. 医学と看護社.

【参考書】

1. 北川公子(2025). 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 第10版. 医学書院.
2. Hamric, AB. et al., 中村美鈴・江川幸二監訳(2020). 高度実践看護 統合的アプローチ 改訂第2版. へるす出版.

【学修の準備】

- 1) 実習3か月前までに、実習課題を明確にして実習計画を立てること。
- 2) 実習に際しては、毎日、実習を振り返ると共に、翌日の行動計画を立案して実習に臨むこと。
- 3) 高度実践看護を提供するために、根拠となる知識を事前に調べた上で実習に臨むこと。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期(修士)課程のディプロマ・ポリシーに適合している。